

第 2 章 小学校及び中学校の指導要録

第1 指導要録記入の概要

1 学籍に関する記録

入学・編入学等

- (1) 入学
児童生徒が第1学年に入学した年月日を記入する。
- (2) 編入学
第1学年の中途又は第2学年以上の学年に編入学した場合、又は就学義務が発生した場合について、その年月日、学年事由等を記入する。
(詳しくは14ページ)

児童（生徒）
学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動の生じたときに記入する。
(詳しくは11ページ)

保護者
「氏名」の欄には、児童生徒に対して親権を行う者がいないときには、未成年後見人を記入する。「現住所」の欄については、児童生徒の現住所と同一の場合、「児童（生徒）の欄に同じ」と略記する。
(詳しくは12ページ)

入学前の経歴
小・中学校に入学するまでの教育関係又は保育関係の略歴を記入する。
(詳しくは13ページ)

学校名及び所在地（分校名・所在地等）
分校の場合は、本校名及び所在地を記入するとともに、分校名、所在地及び在学した学年を併記する。
(詳しくは20ページ)

校長氏名印、学級担任者氏名印
各年度に、校長の氏名、学級担任者の氏名を記入し、それぞれ押印する。
(詳しくは21ページ)

転入学
他の小・中学校から転校してきた児童について、転入学年月日、転入学した学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。
(詳しくは15ページ)

転学・退学等
他の小・中学校に転学する場合には、転学先の日付の年月日、転学先の日付、転学先の日付、転学先の日付、転学先の日付等を記入する。
(詳しくは16ページ)

卒業
校長が卒業を認定した年月日を記入する。
(詳しくは18ページ)

進学先
進学先の学校名及び所在地、就職先の事業所名及び所在地等を記入する。
(詳しくは19ページ)

小学校児童指導要録 (参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学級							
整理番号							

学籍の記録		年度			
区分	学年	1	2	3	4
児童	ふりがな				
	氏名				
	生年月日	年 月 日生			
	現住所				
保護者	ふりがな				
	氏名				
	現住所				
入学前の経歴					
学校名及び所在地	(分校名・所在地等)				
校長氏名印					
学級担任者氏名印					
進学先					
卒業					
転学・退学等					
転入学					
入学・編入学等					

2 指導に関する記録

観点別学習状況

各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。(詳しくは22ページ)

評定

(1)小学校

第3学年以上の各教科の学習の状況について、その実現状況を総合的に評価し記入する。「十分満足できる」状況と判断されるものを3、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2、「努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

(2)中学校

各学年における各教科の学習の状況について、その実現状況を総合的に評価し記入する。必修教科の評定は、「十分満足できるものうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを5、「十分満足できる」状況と判断されるものを4、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを3、「努力を要する」状況と判断されるものを2、「一層努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。選択教科を実施する場合は、各学校が評定の段階を決定し記入する。(詳しくは23ページ)

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名		学校名		区分/学年						
				1	2	3	4	5	6	
				学級						
				整理番号						
各教科の学習の記録				特別の教科 道徳						
教科	観点	学年	1	2	3	4	5	6	学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									
	知識・技能									
	思考・判断・表現									
	主体的に学習に取り組む態度									
	評定									

特別の教科 道徳

学習活動における児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で端的に記述する。(詳しくは24ページ)

外国語活動の記録

評価の観点に記入した上で、それらの観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。(詳しくは26ページ)

総合的な学習の時間の記録

総合的な学習の時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。(詳しくは30ページ)

特別活動の記録

各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。(詳しくは35ページ)

行動の記録

各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童生徒の行動について、各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。
(詳しくは39ページ)

児童氏名															
行 動 の 記 録															
項目	学年	1	2	3	4	5	6	項目	学年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							
総合所見及び指導上参考となる諸事項															
第1学年											第4学年				
第2学年											第5学年				
第3学年											第6学年				
出 欠 の 記 録															
区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しおければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考									
学年															
1															
2															
3															
4															
5															
6															

総合所見及び指導上参考となる諸事項

この欄には児童生徒の成長の状況を総合的に捉えるため、以下のような事項等を文章で箇条書き等により端的に記述する。

- (1) 各教科や外国語活動（小学校のみ）の学習に関する所見
- (2) 総合的な学習の時間に関する所見
- (3) 特別活動に関する事実及び所見
- (4) 行動に関する所見
- (5) 進路指導に関する事項（中学校のみ）
- (6) 児童生徒の特徴・特技、部活動、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動等指導上参考となる諸事項
- (7) 児童生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見
- (8) その他の所見

(詳しくは46ページ)

出欠の記録

以下の事項を記入する。

- (1) 授業日数
 - (2) 出席停止・忌引等の日数
 - (3) 出席しなければならない日数
 - (4) 欠席日数
 - (5) 出席日数
 - (6) 備考
- (詳しくは53ページ)

第2 学籍に関する記録

1 指導要録記入の時期

入学時

- 「児童（生徒）」の欄…氏名、性別、生年月日、現住所
- 「保護者」の欄…氏名、現住所
- 「入学前の経歴」の欄
- 「入学・編入学等」の欄…入学年月日
- 「学校名及び所在地(分校名・所在地等)」の欄

学年当初

- 「学級」「整理番号」の欄
- 「校長氏名印」「学級担任者氏名印」の欄…年度、氏名（押印は学年末）

学年末

- 「学校名及び所在地」の欄…在学した学年（分校に在籍した者のみ）
- 「校長氏名印」「学級担任氏名印」…押印

卒業時

- 「卒業」の欄…卒業年月日
- 「進学先（進学先・就職先等）」の欄
 - ・ 小学校：進学先の中学校（中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中等部を含む。）名及び所在地等
 - ・ 中学校：進学先の学校名及び所在地、就職先の事業所名及び所在地等

事由発生時

- 「入学・編入学等」「転入学」「転学・退学等」の欄
 - ・ 編入学・転入学・転学・退学等があった場合、その年月日、学年（前に在籍した、あるいは転学先の）学校名、所在地、事由
 - ・ 前項までの各欄のうち、必要な事項…例えば、児童（生徒）又は保護者の姓の変更等

【留意点】

- 指導要録は、重要な公簿なので、適切な記入時期に正確な資料に基づき、厳正に吟味し、明確に記入する。

2 欄外の「学級」及び「整理番号」

記入例

<記入例A>

学年 区分	1	2	3	4	5	6
学 級	1	1	3	3	2	2
整理番号	3	4	4	4	2	2

<記入例B>

○ 単学級の場合：学級の欄に斜線を入れる。

学年 区分	1	2	3	4	5	6
学 級	1				2	2
整理番号	1 8	3 4	3 4	3 5	1 8	1 7

【留意点】

○ 整理番号は、通し番号とする。

3 「学籍の記録」の欄

(1) 「児童（生徒）」

- 原則として、学齢簿の記載に基づき学年当初及び異動の生じたときに記入する。
 - ・ 指導要録が、学校における児童生徒の戸籍簿的性格をもっており、この学籍の記録は非常に重要である。
 - ※ 学齢簿：市町村教育委員会が当該市町村に住所を有する者について、市町村長が作成した住民基本台帳に基づいて編製するものである。
(学校教育法施行令第1条2項、第2条)

記入例

<記入例A>

児童 (生徒)	ふりがな	ふくしまたろう	性別	男
	氏名	福島太郎		
	生年月日	平成 25 年 5 月 12 日生		
	現住所	福島県〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番地		

<記入例B> 変更があった場合、2本線を引いて抹消し変更事項を記入する。

児童 (生徒)	ふりがな	ふくしまたろう	性別	男
	氏名	福島太郎		
	生年月日	平成 25 年 5 月 12 日生		
	現住所	福島県〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番地 福島県〇〇郡〇〇町大字〇〇字〇〇〇 〇〇番地		

【留意点】

- 記入の時期は、児童生徒がその学校に籍を有するに至った時期（小学校、中学校の第1学年に入学した当初か、転入学・編入学等の際）、あるいは記入後異動（転学、退学等）が生じたときになる。
- 「ふりがな」は、学齢簿に記載されていないので、本人、保護者によく確かめて、ひらがなで記入する。
- 通称をもつ児童生徒の場合でも、学齢簿の記載どおり正しい氏名を記入する。
- 変更等が考えられる欄であるので、現住所等はあらかじめ欄の上部に寄せて記入する。
- 学校が、児童生徒等から連絡を受けて住所等の変更を知った場合には、学齢簿の訂正を確認してから記入する。
- 氏名や現住所など記入事項に変更のあった場合には、2本線を引いて抹消し変更事項を記入する。

(2) 「保護者」

- 「氏名」の欄には、児童生徒に対して親権を行う者を、親権を行う者がいないときには、未成年後見人を記入する。
- 「現住所」の欄については、児童生徒の現住所と同一の場合、「児童（生徒）の欄に同じ」と略記する。

記入例

<記入例A>

保 護 者	ふりがな	しら かわ いちろう
	氏名	白 河 一 郎
	現住所	児童（生徒）の欄に同じ

<記入例B> 両親が交通事故で死亡したため入学時から叔父が未成年後見人となっていたが、姉が成人し保護者になったような場合

保 護 者	ふりがな	だ て た ろう
	氏名	伊 達 太 郎 だ て はな こ 伊 達 花 子
	現住所	福島県〇〇市〇〇町〇丁目〇番地 児童（生徒）の欄に同じ

<記入例C> 両親が海外駐在員として渡英し、祖父母が実際の養育に当たっているような場合

保 護 者	ふりがな	しの ぶ いちろう
	氏名	信 夫 一 郎
	現住所	児童（生徒）の欄に同じ 英国エジンバラ市〇〇〇〇通2-5

<記入例D> 父親が居所不明になり、母親が保護者になったような場合

保 護 者	ふりがな	すぎ つま じ ろう
	氏名	杉 妻 三 郎 すぎ つま あき こ 杉 妻 秋 子
	現住所	児童（生徒）の欄に同じ

【留意点】

- 「保護者」とは、学校教育法第16条でいう児童生徒に対して親権を行う者であって、親権を行う者がいない場合は、未成年後見人を記入する。
- 保護者名は、学齢簿と一致するようにする。
- この欄の記入は、様々なケースが考えられるが、できるだけ「補助簿」や「指導に関する記録」等によって補充するようにする。

(3) 「入学前の経歴」

- 小学校
小学校に入学するまでの教育又は保育関係の略歴を記入する。
 - ・ 「平成〇〇年〇月から平成〇〇年〇月まで〇〇幼稚園在園（〇〇保育所在所、認定こども園〇〇在園）」
 - ・ 在外教育施設や外国の学校等において受けた教育の実情など

- 中学校
中学校に入学するまでの教育関係の略歴を記入する。
 - ・ 「〇〇市立〇〇小学校卒業」
 - ・ 在外教育施設や外国の学校等において受けた教育の実情など

記入例

<記入例A> 幼稚園等に在籍していた場合

入学前の経歴	平成30年4月から令和2年3月まで、〇〇市立〇〇幼稚園在園。（〇〇保育所在所、認定こども園〇〇在園）
--------	--

<記入例B> 家庭で保育した場合

入学前の経歴	家庭で保育。
--------	--------

<記入例C> 小学校を卒業した場合

入学前の経歴	令和2年3月31日 福島県〇〇郡〇〇町立〇〇小学校 卒業
--------	---------------------------------

<記入例D> 在外教育施設や外国の学校等から編入学し、卒業した場合

入学前の経歴	平成25年4月から平成29年6月まで、アメリカサンフランシスコ市立〇〇小学校に在学。7月に帰国後、〇〇市立〇〇小学校に編入学。令和2年3月31日同校卒業。
--------	---

【留意点】

- 小学校入学前の教育機関は、学校教育法においては幼稚園だけである（学校教育法第1条）が、保育所や認定こども園での保育歴も記録する。
- 中学校においては、通常の場合、卒業した小学校名と卒業年月日を記入するが、入学前の教育歴が複雑であって、入学後の指導にとって必要と考えられるものは、具体的に記入しておく。
- 家庭での保育については、詳しく記入する必要はない。

(4) 「入学・編入学等」

- 入学
児童生徒が第1学年に入学した年月日を記入する。
 - ・ 市町村立学校…市町村教育委員会が通知した入学期日
 - ・ その他の学校…学校において定めた入学期日期日に遅れて出校した場合も、指定の期日を記入する。
- 編入学
第1学年の中途又は第2学年以上の学年に、在外教育施設や外国の学校等から編入学した場合、又は児童自立支援施設（若しくは少年院）から移った場合、就学義務の猶予及び免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合の児童生徒について、その年月日、学年、事由等を記入する。

記入例

<記入例A> 第1学年に入学の場合

入学・編入学等	令和 2 年 4 月 1 日	第 1 学年入学 第 2 学年編入学
---------	----------------	----------------------------------

<記入例B> 在外教育施設や外国の学校等からの編入学の場合

入学・編入学等	令和 2 年 6 月 25 日	第 1 学年入学 第 2 学年編入学
	令和2年6月、イタリアより帰国。ローマ市中学校第1学年修了証明により、第2学年の編入学を認める。	

<記入例C> 児童自立支援施設から移ってきた場合

入学・編入学等	令和 2 年 10 月 15 日	第 1 学年入学 第 3 学年編入学
	令和2年3月10日（第2学年在学）より令和2年10月14日まで、〇〇児童自立支援施設に入所していたが、在所が解除されて復校した。	

<記入例D> 就学義務の猶予及び免除の事由が消滅した場合

入学・編入学等	令和 2 年 6 月 1 日	第 1 学年入学 第 4 学年編入学
	病気（〇〇）が全快し、就学可能なため、猶予された当時の第4学年に編入した。	

【留意点】

- 入学とは、児童（生徒）が小学校（中学校）の第1学年の当初に就学することをいう。下部の「第〇学年編入学」の部分は、2本線で抹消する。
- 編入学とは、下記の事例により第1学年の中途又は第2学年以上の学年に入ることをいう。当該校長の認定によって相当学年に編入学する。編入学の事例は以下のようなものがある。
 - ・ 在外教育施設や外国等にいた子女が帰国して、小学校又は中学校に入る場合
 - ・ 児童自立支援施設（児童福祉法第44条による施設）や少年院（少年院法第1条による施設）から、小学校又は中学校に移ってきた場合
 - ・ 学校教育法第18条の規定によって就学義務の猶予及び免除を受けていた者がその事由消滅により就学義務が発生して、小学校又は中学校に入る場合
- 編入学の場合は、その事由等を下の余白に記入し、上部の「第1学年入学」の部分を2本線で抹消する。編入学以前の教育状況で特記すべき事項があればこの欄に記入する。

(5) 「転入学」

○ 小学校

他の小学校（義務教育学校前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。）から転校してきた児童について、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。

○ 中学校

他の中学校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。）から転校してきた生徒について、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。

記入例

転入学	令和 2 年 1 2 月 1 0 日 第 2 学年転入学 東京都〇〇市立〇〇中学校より (東京都〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号) 保護者の転勤により現住所に転居したため
-----	---

【留意点】

- 転入学とは、他の同種の学校から転校してきた場合である。
- 特別支援学校の小学部（中学部）からの転入の場合でも、転入学として取り扱う。
- 在外教育施設や外国の学校等からの編入学又は児童自立支援施設（若しくは少年院）から移った場合などは、「入学・編入学」の欄に、編入学等の場合として記入する。
- 外国人の児童生徒の受け入れに際し、年齢相当の学年への受け入れに限らず、一時的又は正式に下学年への入学を認めることが可能である。
(定住外国人の子どもに対する緊急支援について
20文科初第8083号 平成21年3月27日参照)
(学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知）
25文科初第928号 平成26年1月14日参照)
(文部科学省ホームページ「小・中学校等への就学について」及び
「就学事務Q&A」の改定について)
- 転入学の年月日は、市町村教育委員会が指定した日である。ただし、児童生徒の在籍が新旧両校に重複しないようにするため、その取扱いには十分留意しなければならない。（「転学・退学等」の欄参照）

(6) 「転学・退学等」

○ 小学校

他の小学校（義務教育学校前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。）に転学する場合には、転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日、転学先の学校名、所在地、転入学年及びその事由等を記入する。また、学校を去った年月日についても（ ）内に併記する。

○ 中学校

他の中学校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。）に転学する場合には、転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日、転学先の学校名、所在地、転入学年及びその事由等を記入する。また、学校を去った年月日についても（ ）内に併記する。

○ 在外教育施設や外国の学校に入るために退学する場合又は学齢（満15歳に達した日の属する学年の終わり）を超過している児童生徒が退学する場合は、校長が退学を認めた年月日及びその事由等を記入する。

○ 就学義務が猶予及び免除される場合又は児童生徒の居所が1年以上不明である場合は、在学しない者として取り扱い、在学しない者と認めた年月日及びその事由等を記入する。

記入例

<記入例A> 保護者の転居等による場合

転学・退学等	(令和 2 年 5 月 10 日) 令和 2 年 5 月 13 日 福島県〇〇郡〇〇町立〇〇小学校第3学年に転学 (福島県〇〇郡〇〇町大字〇〇字〇〇 〇〇番地)保護者転居のため
--------	---

<記入例B> 児童自立支援施設に入る場合（在外教育施設や外国の学校等に入る場合も同じ）

転学・退学等	(令和 2 年 10 月 27 日) 令和 年 月 日 〇〇市〇〇児童自立支援施設へ入所
--------	--

<記入例C> 行方不明の場合…1年後に退学

転学・退学等	(令和 2 年 5 月 11 日) 令和 年 月 日 令和元年5月10日以後所在不明のため、在学しない者と認定した。
--------	--

<記入例D> 就学義務猶予及び免除の場合

転学・退学等	(令和 2 年 10 月 27 日) 令和 年 月 日 〇〇病のため入院し、就学義務免除
--------	--

<記入例E> 学齡超過の場合

転学・退学等	(令和 年 月 日)
	令和 2 年 6 月 3 日
	学齡超過のため退学

<記入例F> 死亡の場合

転学・退学等	(令和 3 年 3 月 4 日)
	令和 年 月 日
	交通事故で死亡のため除籍

【留意点】

- ① 転学とは、その学校から他の同種の学校に転校することをいう。
- ② 退学等とは、次の場合をいう。
 - ア 在外教育施設や外国の学校等に入るために学校を去る場合
 - イ 学齡（満15歳に達した日の属する学年の終わり）を超過している児童生徒が、就学義務がなくなったことによって学校を去る場合
 - ウ 児童自立支援施設へ入所又は少年院に入院する場合
 - エ 就学義務猶予及び免除の措置がなされた場合（学校教育法第18条）
 - オ 児童生徒の居所が1年以上不明で長期欠席を続けている場合
- ③ 転学のために学校を去った年月日をこの欄の（ ）内に、また、転学先の学校が受け入れた日の前日の年月日を下部に記入する。さらに、転学先の学校名、その所在地、転学学年及びその事由等を余白に記入する。
- ④ 学校を去った日というのは、その学校に出校した最後の日のことであって、転学を願い出た日や転学のための在学証明書を発行した日ではない。
- ⑤ 除籍日とは、転学先の学校が児童生徒を受け入れた日の前日をいう。したがって、学校を去った日から転学先の学校が受け入れる前日までは、児童生徒の籍はもとの学校に置いておかなければならない。
- ⑥ 転学先が学校の近隣のため、学校を去った日と転学先の学校が受け入れた日が同じ場合、新旧両校に籍が重複しないようにするため、本県では、転出校を基準に取り扱うことにしている。したがって、転入校では、転入児童生徒の持参する転出校の在学証明書を確認し、即日転出入の場合には、その翌日をもって転入日とする。なお、即日転出入日が金曜日の場合は、次週の月曜日を転入日とする。この場合、転出校では、日曜日が除籍日となる。
- ⑦ 転学先の学校への異動等に要した日数は、出席でも欠席でもなく、授業を受けない日として取り扱う。
- ⑧ 退学等で、前記②のアとイの場合は、校長が退学と認めた日を下部の年月日欄に記入し、その下の余白にその事由等を記入する。
- ⑨ 前記②のイの場合は、退学後の状況を「進学先・就職先等」の欄に記入する。
- ⑩ 前記②のウ・エ・オの場合は、昭和32年2月25日付け「学齡簿及び指導要録の取り扱いについて」の通達の趣旨にしたがって、在籍しない者として取り扱うこととしている。この場合の記入の仕方は、校長が在籍しない者と認めた年月日を、上部の（ ）内に記入し、下の余白にその事由等を記入する。なお、児童生徒の死亡による場合は、除籍として扱う。

(7) 「卒業」

- 校長が卒業を認定した年月日を記入する。

記入例

卒業	令和 3 年 3 月 31 日
----	-----------------

(8) 「進学先（進学先・就職先等）」

- 小学校
進学先の学校名及び所在地を記入する。

- 中学校
進学先の学校名及び所在地、就職先の事業所名及び所在地等を記入する。

記入例

<記入例A> 小学校から中学校への進学の場合

進学先	福島県〇〇市立〇〇中学校 (福島県〇〇市〇〇町〇〇番〇〇号)
-----	-----------------------------------

<記入例B> 中学校から高等学校への進学の場合

進学先・就職先等	福島県立〇〇工業高等学校 (福島県〇〇市〇〇町字〇〇 〇〇番地)
----------	-------------------------------------

<記入例C> 就職した場合

進学先・就職先等	〇〇株式会社〇〇工場 (福島県〇〇郡〇〇町〇〇番地)
----------	-------------------------------

<記入例D> 就職しながら定時制高校へ進学した場合

進学先・就職先等	福島県立〇〇高等学校定時制 (福島県〇〇市〇〇町〇〇番〇〇号) 福島自動車整備会社 (福島県〇〇郡〇〇町字〇〇 〇〇番地)
----------	--

<記入例E> 家事または家業に従事した場合

進学先・就職先等	家業（製材業）に従事 現住所と同じ
----------	------------------------

<記入例F> 学齢超過による退学の場合

進学先・就職先等	退学（学齢超過）後、通院しながら健康回復に努めている。
----------	-----------------------------

【留意点】

- 中学校の場合は、義務教育の修了となるため、次の事項を記入する。
 - ・ 進学した者については、進学した学校名及び所在地
 - ・ 就職した者については、就職先の事業所名及び所在地
 - ・ 就職しながら進学した者（定時制高校等の場合）については、進学先と就職先両方の名称及び所在地
 - ・ 家事又は家業に従事する者については、その旨及び職種

4 「学校名及び所在地（分校名・所在地等）」の欄

- 分校の場合は、本校名及び所在地を記入するとともに、分校名、所在地及び在学した学年を併記する。

記入例

学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)	福島県〇〇郡〇〇町立〇〇小学校 (福島県〇〇郡〇〇町大字〇〇字〇〇 〇〇番地) 福島県〇〇郡〇〇町立〇〇小学校 〇〇分校 福島県〇〇郡〇〇町大字〇〇字〇〇 〇〇番地の〇〇 第1学年～第4学年
-------------------------------------	---

【留意点】

- 学校名及び所在地等は、略すことなく正確に記入する。
- 町名変更等の場合を考えて余白を残しておくといよい。

5 「校長氏名印、学級担任者氏名印」の欄

- 各年度に、校長の氏名、学級担任者の氏名を記入し、それぞれ押印する。(同一年度に校長又は学級担任者が代わった場合には、その都度後任者の氏名を併記する。)

なお、氏名の記入及び押印については、電子署名(電子署名及び認証業務に関する法律(平成12年法律第102号)第2条第1項に定義する「電子署名」をいう。)を行うことで替えることも可能である。

また、電子署名については、「表簿・指導要録等の電子化に係る基本的な考え方等について」(平成24年3月29日付け事務連絡)を参考にするとともに、市町村の行政手続等における情報通信の技術の利用に関する規則等を遵守すること。

記入例

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
区分 / 学年	1	2	3
校長氏名印	安積 一郎 (印)	安積 一郎 (印)	平成 三郎 (4月～9月) 令和 太郎 (印) (10月～3月)
学級担任者氏名印	福島 三代 (印)	国見 夏子 (4月～7月) 桑折 秋雄 (印) (8月～3月)	田島 四郎 (印) (4月～6月) (1月～3月) 二本松 五郎 (7月～12月)

【留意点】

- 女性教員の産前産後の休暇中における臨時的任用の教員が担当した場合などにおいても、その氏名を記入する。
- 途中で学級担任者が代わった場合には、前任者は押印しない。
- 学年末又は児童生徒の転学・退学等の際は、記入について責任を有する校長及び学級担任者が押印すること。
- 補充教員であっても、学年末に当たり記入の責任がある場合は、押印する。

第3 指導に関する記録

1 指導要録記入の時期

入学時又は学年当初

- 欄外の「児童（生徒）氏名」「学校名」「学級」「整理番号」

- ・ 入学時又は学年当初に記入すること。
- ・ 学年が単学級の場合には、「学級」の欄に斜線を入れること。
- ・ 整理番号は通し番号とすること。
- ・ 学校名は、「福島県〇〇郡〇〇町立〇〇小学校」（ゴム印可）のように記入すること。

学 年 末

- 「各教科の学習の記録」の欄
- 「特別の教科 道徳」の欄
- 「外国語活動の記録」の欄
- 「総合的な学習の時間の記録」の欄
- 「特別活動の記録」の欄
- 「行動の記録」の欄
- 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄
- 「出欠の記録」の欄

事由発生時

- 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄（必要に応じて記入する。）

- ・ 学級や学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報。
- ・ 通級による指導を受ける学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等。

2 「各教科の学習の記録」の欄

(1) 観点別学習状況

小学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示63号）、中学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示64号）に示されている各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。

小・中学校における各教科の評価の観点について、設置者は、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領等を踏まえ、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」

（平成31年3月29日）別紙4（116ページ）等を参考に、各学校で観点を追加して記入できるよう、設置者が様式を作成する。

【留意点】

- 各教科の観点別学習状況の評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」によって構成し、この順序で示されている。
- 巻末資料編「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」で示された教科別・学年別及び分野別の評価の観点及び趣旨や、国立教育政策研究所教育課程研究センターの「評価規準の作成のための参考資料（小学校）」「同（中学校）」を参考にして、個々の児童生徒の実現状況を的確に把握する具体的な評価計画を少なくとも単元や題材ごとに作成し、個人内評価を工夫して評価にあたる必要がある。
- きめ細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示されている目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を着実に実施すること。

(2) 評 定

○ 小学校

この欄には、第3学年以上の各学年の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評定は、小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを3、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2、「努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

○ 中学校

この欄には、各学年における各教科の学習の状況について、中学校学習指導要領等に示す教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

必修教科の評定は、中学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを5、「十分満足できる」状況と判断されるものを4、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを3、「努力を要する」状況と判断されるものを2、「一層努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

選択教科を実施する場合は、各学校が評定の段階を決定し記入する。

【留意点】

- 評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

3 「特別の教科 道徳」の欄

(1) 道徳科の評価に当たって

この欄は、小・中学校学習指導要領第3章の児童生徒の「学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする」という規程の趣旨に基づいて記述することが大切である。

評価に際しての基本的な考え方については、「学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（28文科初第604号・平成28年7月29日）に記載されている次項に示す①～⑤の内容をしっかりと踏まえる必要がある。

(2) 道徳科の評価に関する基本的な考え方とそれを踏まえた記入例

- ① 児童生徒の人格に働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価については、育むべき資質・能力を観点別に分節し、学習状況を分析的に捉えることは妥当ではない。
- ② 「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める」についての児童生徒の具体的な学習の状況を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しをもって振り返る場面を適切に設定しつつ見取る。
- ③ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う。
- ④ 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とする。
- ⑤ 学習活動において、「児童生徒が、より多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」といった2つの点を重視する。

これらの5つに加えて、この欄に記入する評価は、道徳科としての授業の評価であって、行動に表れている道徳性の評価は、「行動の記録」の欄に記載することで、明確に区別しなければならないことを付記しておく。

記 入 例

【「児童生徒が、より多面的・多角的な見方へと発展しているか」に関わって】

小 ・ 中 学 校 の 例	<ul style="list-style-type: none">・ 道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な面から捉え、自分のこととして考えていた。・ 授業のテーマについて様々な立場や根拠から考え、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていた。・ 友達の考えをよく聞き、意見交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて、道徳的な問題を解決しようとしていた。・ 葛藤や迷いが生じる話合いの場面では、自分と友達の考えを比べ、よりよい行動は何かをよく考えていた。・ 道徳的な問題場面において、「自分だったらどうするか」を熱心に考え、友達と議論する中で、考えを深めていた。・ 教材文中の時間の経過とともに変化する心情について、主人公の迷いや葛藤に共感しながら考え、自分（人間）の強さや弱さを感じていた。
---------------------------------	---

【「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」に關わって】

小 ・ 中 学 校 の 例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文の主人公に自分の姿を重ねたり、教材で学んだことと自分の生活や気持ちを結び付けて考えたりして、自分のこととして考えていた。 ・ 学習テーマを自分のこととして捉え、友達の考えを聞いて、自分自身をより深く見つめ直したり、考えを深めたりしようと努めていた。 ・ 振り返りカードには、テーマについて自分が考えたことや学んだこと、自分の生活を振り返って考えたこと等がしっかりと記述されていた。 ・ 現在の自分の内面や生活を振り返り、自分のよさや至らなさを見つめ直して考えていた。 ・ 友達の発言にうなずきながら耳を傾け、自分の考えとの類似や相違について熱心に考えていた。 ・ 日常生活や学校生活等を想起しながら、道徳的問題場面を捉え、自分だったらどうするのか絶えず自分自身に問いかけていた。
---------------------------------	---

【「道徳性に係る成長の様子」に關わって】

小 ・ 中 学 校 の 例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では、これまでの自分の体験を振り返り、今後に生かそうと努めている姿が見られるようになってきた。 ・ 常に自分に厳しい目をもっていて、授業では自分を振り返り、不十分な自分を見つめ、よりよく生きる方向性を見付けようとする様子が見えようになった。 ・ 授業では、教材文にある困難や挫折を前向きに捉えて発言するようになり、自分の夢や希望をいつも大切に温めている様子を感じられた。 ・ 授業では、友達や家族にやさしくしたり、自分の周りの人々に思いやりの気持ちを表したりするなど、他者との関わりを意識している様子が多々見られるようになった。 ・ 授業では、よりよく生きようとする人間の強さと、よいことと分かっているにもかかわらず実現できない人間の弱さの両面に思いをめぐらせている記述が多くなった。
---------------------------------	--

【留意点】

- 児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます評価を具現するためには、各学校が、質の高い多様な指導方法の確立や評価の工夫・改善に向けて積極的に取り組むことが求められる。
- 道徳科の評価は、「各教科の評定」や「出欠の記録」、「行動の記録」、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」等とは基本的に性質が異なるものであり、調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする。
- 発達障害等のある児童生徒への必要な配慮については、困難さの状況ごとに配慮が必要であり、相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているかなど、児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展させていたり、道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているかを丁寧に見取る必要がある。

4 「外国語活動の記録」の欄

この欄は、評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

評価の観点については、設置者は、小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成31年3月29日）の評価の観点及び趣旨（下表）を参考に設定する。

<小学校 外国語活動>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。 ・ 日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ・ 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 	<p>身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

記入例

【知識・技能】

小学校3年の例	<p>聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な考えがあることや、音声やリズムについて外来語を通して日本語と英語の違いに気付くとともに、好きなものを聞き取る際に必要な語句について理解を深めていた。【知識】 ・ 好きなものを聞き取る際に必要な語句を聞くことに慣れ親しんでいた。【技能】 <p>話すこと [やり取り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本と外国の数の数え方の違いから、多様な考えがあることに気付くとともに、1から20までの数の言い方や数の尋ね方について理解を深めていた。【知識】 ・ （自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、）（数の言い方や数の尋ね方を用いて、）1から20までの数を尋ね合うことに慣れ親しんでいた。【技能】 <p>話すこと [発表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、形及び動物の言い方や贈り物を渡す際の表現について理解を深めていた。【知識】 ・ （自分のことについて、）形及び動物の言い方や贈り物を渡す際の表現を用いて、グリーティングカードを紹介するために話すことに慣れ親しんでいた。【技能】
---------	--

<p>小学校4年の例</p>	<p>聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の国や地域によって時刻が異なることに気付くとともに、時刻や生活時間の言い方や尋ね方について理解を深めていた。【知識】 ・ 時刻や生活時間の言い方や尋ね方を聞くことに慣れ親しんでいた。【技能】 <p>話すこと [やり取り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界と日本の同年代の子どもたちの生活の違いに気付くとともに、曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現について理解を深めていた。【知識】 ・ (自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、) (簡単な語句や基本的な表現を用いて、) 曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいた。【技能】 <p>話すこと [発表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜、果物及び飲食物の言い方や欲しいものを要求する表現について理解を深めていた。【知識】 ・ (日常生活に関する身近で簡単な事柄について、) 野菜、果物及び飲食物の言い方や欲しいものを要求する表現を用いて、自分の気持ちや考えなどを話すことに慣れ親しんでいた。【技能】
----------------	--

【思考・判断・表現】

<p>小学校3年の例</p>	<p>聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きなものを伝え合う活動をするために、必要な語句を聞いていた。 <p>話すこと [やり取り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな漢字を紹介し合うために、(自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、) (簡単な語句や基本的な表現を用いて、) 質問をしたり質問に答えたりしていた。 <p>話すこと [発表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グリーティングカードを紹介するために、(自分のことについて、) 級友に実物を見せながら、(簡単な語句や基本的な表現を用いて、) 話していた。
<p>小学校4年の例</p>	<p>聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな時刻とその理由を伝え合う活動をするために、数字及び日課・時間を聞き取る際に必要な語句を聞いていた。 <p>話すこと [やり取り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア活動を通して同じ曜日が好きな級友を探すために、(自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、) (簡単な語句や基本的な表現を用いて、) 質問をしたり質問に答えたりしていた。 <p>話すこと [発表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナルピザメニューを紹介するために、(日常生活に関する身近で簡単な事柄について、) 級友に実物を見せながら、(簡単な語句や基本的な表現を用いて、) 自分の考えや気持ちなどを話していた。

【主体的に学習に取り組む態度】

<p>小学校 3年 の 例</p>	<p>【粘り強い取組を行おうとする側面】</p> <p>聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物が好きなものを選ぶために、基本的な表現の意味を聞こうとしていた。 <p>話すこと [やり取り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シルエットクイズや足跡クイズで問題を出したり答えたりするために、動作（ジェスチャー）を交えながら、（簡単な語句や基本的な表現を用いて、）自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしていた。 <p>話すこと [発表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グリーティングカードを紹介するために、級友に実物を見せながら、（簡単な語句や基本的な表現を用いて、）話そうとしていた。 <p>【自らの学習を調整しようとする側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クイズ大会をするために、どのような語句及び表現を学習すればよいかなど、言語活動への取組に関して、単元（や内容のまとまり）の見通しを立てていた。 ・ 何が好きかを伝え合うために、必要な語句及び表現を学習する単元（や内容のまとまり）の見通しを立てたり、振り返ったりして、自らの学習を自覚的に捉えていた。 ・ いろいろな形を集めて作ったカードを贈る単元（や内容のまとまり）の最後では、自らの学習を振り返ることにより、学びの歩みを自覚的に捉えていた。
<p>小学校 4年 の 例</p>	<p>【粘り強い取組を行おうとする側面】</p> <p>聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの看板や標識かを当てるために、文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを聞こうとしていた。 <p>話すこと [やり取り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活で自分が気に入っている場所について伝え合うために、級友及びALTのサポートを受けて、（簡単な語句や基本的な表現を用いて、）質問をしたり質問に答えたりしようとしていた。 <p>話すこと [発表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナルピザメニューを紹介するために、級友に実物を見せながら、（簡単な語句や基本的な表現を用いて、）自分の考えや気持ちなどを話そうとしていた。 <p>【自らの学習を調整しようとする側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内の好きな場所に案内するために、どのような語句及び表現を学習すればよいかなど、言語活動への取組に関して、単元（や内容のまとまり）の見通しを立てていた。 ・ 身の回りからアルファベットの文字を探し文字クイズを出し合うために、単元（や内容のまとまり）の見通しを立てたり、振り返ったりしていた。 ・ オリジナルピザを作り紹介し合う単元（や内容のまとまり）の最後では、自らの学習を振り返ることにより、学びの足跡を自覚的に捉えていた。

【留意点】

- 従来、観点別に設けていた文章記述欄を一本化した上で、評価の観点に即して、その特徴を記入するようにする。
- 各観点について、観点ごとに一文で、又は、観点をまとめて一文にするなどして記述するようにする。
- ※ 例文などは「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（案）（小学校・中学校）／国立教育政策研究所教育課程研究センター令和元年11月版」を参考に作成した。
- ※ ここに記した記入例は、あくまで例示であり、目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、必ずしもこの例示のとおりである必要はない。

5 「総合的な学習の時間の記録」の欄

(1) 一般的な事項

この時間に行った学習活動及び評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

評価の観点については、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領等に示されている総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定める。今回の学習指導要領改訂では、各教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理しているが、このことは総合的な学習の時間においても同様である。新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進するためにも、評価の観点については「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点到に整理する。

なお、指導要録については、これまでどおり、実施した「学習活動」、「評価の観点」、「評価」の三つの欄で構成する。

(2) 「学習活動」の欄

学習活動は、学年で総合的な学習の時間に実施したものを、内容がわかるように要約して記載する。

探究的な学習の過程として取り上げる課題

探究的な学習の過程を総合的な学習の時間の本質と捉え、教科の枠を超えて探究する価値のある課題について、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の探究の過程を経由し、解決に向けて取り組んでいけるよう配慮する。

<探究課題の例>

- ① 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する課題
- ② 地域や学校の特色に応じた課題
- ③ 児童生徒の興味・関心に基づく課題
- ④ 職業や自己の将来に関する課題

【留意点】

- 欄の大きさが限られているので、学習内容が分かるよう簡潔に記入するとともに、どのような学習をしたのか、次の学年の担任が児童生徒の学習歴を読み取れるように記入する。
- 1年間の学習を振り返り、活動のすべてを記入することができない場合には、児童生徒の学習や成長に影響を与えたと思われる重要な学習活動をいくつか取り上げて記入する。

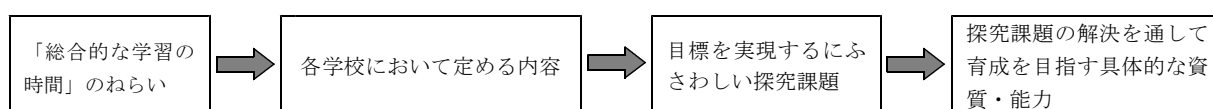
(3) 「観点」の欄

観点別の学習状況評価を基本とする総合的な学習の時間の評価においても、資質や能力がどのように生まれ、何を学び取っているかなど、学習の状況をバランスよく総合的に判断するためにあらかじめ複数の観点を設定する。

観点の設定のしかた

観点は、各学校において定めた目標、内容、資質・能力を踏まえて設定する。その際、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成31年3月29日）に示された観点の例示を参考とする。

また、観点の設定に当たっては、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、学習指導要領に示された三つの事項（小学校では、第5章第2の3（6））に配慮する。



- 総合的な学習の時間のねらいを踏まえて、内容を設定する。
- 目標を実現するにふさわしい探究課題を、学校が設定する。（学習対象）
- 各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体的に示す「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定する。
- 観点の趣旨を明確にする。

<小学校 総合的な学習の時間の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

<中学校 総合的な学習の時間の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

【留意点】

- 総合的な学習の時間に対する学校としての取組や方針、特色が明確になるよう、学年間で統一のとれた観点の趣旨を列記するようにする。

(4) 「評価」

総合的な学習の時間の評価については、各学校が自ら設定した観点の趣旨を明らかにした上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章で記述する。

評価については、以下に示すことを重視する。

- ① 信頼される評価の方法であること。
- ② 多面的な評価の方法であること。
 - ・ 発表やプレゼンテーションなどの表現による評価
 - ・ 話し合い、学習や活動の状況などの観察による評価
 - ・ レポート、ワークシート、ノート、作文、論文、絵などの制作物による評価
 - ・ 学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価
 - ・ 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価
 - ・ 教師や地域の人々等による他者評価 など
- ③ 学習状況の過程を評価する方法であること。

記入例

- ① 総合的な学習の時間の目標を踏まえた評価の記入例

ア 1つの学習活動のある観点についての評価を詳しく記入する場合

下記の例では「外国の生活を調べて発表会を開こう」の「思考・判断・表現」の観点について、評価を記入している。

学 習 活 動	観 点	評 価
会話を楽しもう 外国の生活を調べて発表会を開こう 〇〇学校との交流会 (電子メールの使い方) 手話や点字について知ろう	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	・ 実際の外国料理の調査実習や、外国人へのインタビュー活動を通して、外国文化やものの考え方を理解することができた。生活や文化の違いを、相手の国の立場に立って考えることができるようになった。

イ いくつかの事項を、できるだけ観点に沿って記入する場合

学 習 活 動	観 点	評 価
地域の環境問題について調べよう ・〇〇川の水質検査 ・〇〇公園の清掃活動 ふるさとの自然をとりもどそう	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 適切な課題を設定し、解決のために必要な情報を集めることができた。 河川の汚染の状況について、過去から現在までの経緯を調べ、地域の住みやすさを求めて、よりよい環境づくりを進めようとする態度が育ってきた。 地域の清掃活動を通して、ゴミを分別して決められた場所へ捨てることを実践できるようになった。

② 教科との関連を明確にした評価の記入例

ア 1つの学習活動のある観点についての評価を詳しく記入する場合

下記の例では「地域紹介のパンフレット作成」の「知識・技能」の観点について、評価を記入している。

学 習 活 動	観 点	評 価
地域の社会施設見学と自然体験 地域紹介のパンフレット作成 未来の町の姿を変えよう	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 実際に町を歩いて、地域の過去、現在、未来にかかわる様々な取材を行い、地域の行事や自然環境などについて、要点を整理しながら、パンフレットづくりを進めることができた。発表会では、グループの中心になって、わかりやすく発表することができた。

イ いくつかの事項を、できるだけ観点に沿って記入する場合

学 習 活 動	観 点	評 価
ミュージカル劇を上演しよう 学校周辺の草木や虫の図鑑づくり コンピュータで作曲しよう	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力しながら脚本を書いたり、選曲をしたりすることができた。大道具づくりに、熱心に取り組むことができた。 理科の学習をもとに、疑問や課題をもち続け、最後まで自分で追究することができた。 コンピュータを利用して、自分がイメージした曲をつくることができた。

【留意点】

- 評価欄については、各観点ごとに、簡易に「満足できる」「不十分」などの表現で表記することのないようにする。
- 評価のための資料は、総合的な学習の時間の目標に沿ったものになるよう、評価の観点に照らし合わせて選択するようにする。また、逆に、顕著な特徴が見られても、観点に対応していない場合には、評価として取り上げないように留意する。
- 単なる事実だけでなく、学習した内容や、気付き、考え方、行動などについても表記する。
- 児童生徒一人一人が異なる学習展開となる場合もあるので、児童生徒によって評価する観点が変わってくることもある。
- 学習活動、観点と関連付けて、評価の欄を1つの項目で丁寧に評価する場合と、観に沿って、できるだけ数多くの事項を評価する場合とを明確にして表記する。
- 評価の観点を基本としながら、その児童生徒ならではの学びや成長の特徴を、具体的な活動を交えて表記することも可能である。

6 「特別活動の記録」の欄

(1) 評価の観点等

この欄には、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

各学校においては、学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し、観点を作成する。次に示すように、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、具体的な観点を設定することが考えられる。

<小学校>

【特別活動における「評価の観点及びその趣旨」をもとにした例】

観 点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
趣 旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要となることについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）をもとに重点化を図った例】

観 点	集団や社会に参画するための知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
趣 旨	多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を向上する上で必要となることを理解している。 よりよい生活づくりのための話し合いの手順や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働して、よりよい生活や人間関係を築くために、集団や個の生活上の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

【社会参画に重点化を図った例】

観 点	多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
趣 旨	学級・学校生活の充実のために主体的に参画することの意義や、そのための話合いの手順を理解している。 学級会等における合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	学級・学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成を図って決定したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級・学校の生活の改善・充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。 なりたい自分を目指し、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

<中学校>

【特別活動における「評価の観点」及びその趣旨をもとにした例】

観 点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
趣 旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）をもとに重点化を図った例】

観 点	集団や社会に参画するための知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
趣 旨	多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を改善・向上する上で必要となることを理解している。 よりよい生活や社会の構築に向けた話合いの手順や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働して、よりよい生活や社会、人間関係を構築するために、集団や個人の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校、社会の構成者としてのこれまでの自分を振り返り、現在及び将来の自己実現に向けて目標をもって努力し、協働してよりよく生きていこうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「人間関係形成」）をもとに重点化を図った例】

観 点	互いのよさを生かす関係をつくるための知識・技能	協働してよりよい集団生活を築くための思考・判断・表現	主体的に多様な他者と関係をつくろうとする態度
趣 旨	個と集団との関係性および集団活動の意義を理解し、社会生活におけるきまりやマナーに則った行動の仕方を身に付けている。	様々な場面で、自分と異なる考えや立場にある他者を尊重して認め合い、支え合ったり補い合ったりして協働することができる。	様々な集団に積極的に所属し、他者の価値観や個性を受け入れ、新たな環境のもとで互いの可能性を發揮できる関係を築こうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「社会参画」）をもとに重点化を図った例】

観 点	集団の一員として活動するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	よりよい社会の形成に向けて主体的に自己を生かす態度
趣 旨	学級・学校集団や社会生活の中で他者と協力して役割を果たすことの意義を理解し、そのための話合いの進め方を身に付けている。	学級や学校、社会生活の充実・向上のために課題を発見し、集団としての解決方法を合意形成したり、個人としての実践目標を意思決定したりできる。	現在及び将来の自己の活動や役割を振り返ることで、成長や課題を認識し、これからの集団生活の改善に生かそうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「自己実現」）をもとに重点化を図った例】

観 点	将来の自己と学びを結び付けるために必要な知識・技能	自己の生活課題を改善するための思考・判断・表現	主体的に人間としての生き方を選択しようとする態度
趣 旨	将来の社会的・職業的な自立と現在の学習とのつながりを理解し、自己の生活をよりよくするために個性を生かす方法を身に付けている。	集団の中で、個々人が共通して直面する現在及び将来に関わる課題を発見するとともに、必要な情報を収集・整理して考察し、解決に向けて意思決定できる。	日常の生活や自己の在り方を自主的に改善するとともに、将来を思い描き、自分らしい生き方を主体的に選択しようとしている。

記 入 例

<小学校> (第5学年の記入例)

特別活動の記録								
内 容	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能		○		○	○	○	
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現			○			○	
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		／	／	／	／	○	
学校行事	余白		○	○			○	

<中学校> (第2学年の記入例)

特別活動の記録					
内 容	観 点	学 年	1	2	3
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能		○	○	
生徒会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現			○	
学校行事	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度			○	
	余白				

- ※ 記入例は、【特別活動における「評価の観点及びその趣旨」をもとにした例】の観点だが、全学年で共通した、各学校で定めた評価の観点を記入する。
- ※ 評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。
- ※ 児童会活動は、低学年においても活動の状況を適切に評価する。
- ※ クラブ活動を実施しない学年には、当該学年の欄に斜線を記入する。

【留 意 点】

- 「十分満足できる状況」と判断できる具体的な状況を評価するにあたり、学校内で共通理解を図る。児童生徒の発達段階等を踏まえ、個人や学年間で異ならないようにする。
- 児童生徒が満足できる状況にないと判断した場合は記入せず、空欄にする。

7 「行動の記録」の欄

ここには、各教科、道徳科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童生徒の行動について、各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。また、特に必要があれば、項目を追加して記入する。

行動に関する所見は、児童生徒の成長の状況を総合的に捉えるという趣旨から、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に文章で箇条書き等で端的に記入する。この欄に掲げられた各項目の趣旨は、次のようなものであること。

<小学校>

項 目	学 年	趣 旨
基本的な生活習慣	第1学年及び第2学年	安全に気を付け、時間を守り、物を大切にし、気持ちのよいあいさつを行い、規則正しい生活をする。
	第3学年及び第4学年	安全に努め、物や時間を有効に使い、礼儀正しく節度のある生活をする。
	第5学年及び第6学年	自他の安全に努め、礼儀正しく行動し、節度を守り節制に心掛ける。
健康・体力の向上	第1学年及び第2学年	心身の健康に気を付け、進んで運動をし、元気に生活をする。
	第3学年及び第4学年	心身の健康に気を付け、運動をする習慣を身に付け、元気に生活をする。
	第5学年及び第6学年	心身の健康の保持増進と体力の向上に努め、元気に生活をする。
自主・自律	第1学年及び第2学年	よいと思うことは進んで行い、最後までがんばる。
	第3学年及び第4学年	自らの目標をもって進んで行い、最後まで粘り強くやり通す。
	第5学年及び第6学年	夢や希望をもってより高い目標を立て、当面の課題に根気強く取り組み、努力する。
責任感	第1学年及び第2学年	自分でやらなければならないことは、しっかりと行う。
	第3学年及び第4学年	自分の言動に責任をもち、課せられた役割を誠意をもって行う。
	第5学年及び第6学年	自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動をする。
創意工夫	第1学年及び第2学年	自分で進んで考え、工夫しながら取り組む。
	第3学年及び第4学年	自分でよく考え、課題意識をもって工夫し取り組む。
	第5学年及び第6学年	進んで新しい考えや方法を求め、工夫して生活をよりよくしようとする。
思いやり・協力	第1学年及び第2学年	身近にいる人々に温かい心で接し、親切にし、助け合う。
	第3学年及び第4学年	相手の気持ちや立場を理解して思いやり、仲よく助け合う。
	第5学年及び第6学年	思いやりと感謝の心をもち、異なる意見や立場を尊重し、力を合わせて集団生活の向上に努める。
生命尊重・自然愛護	第1学年及び第2学年	生きているものに優しく接し、自然に親しむ。
	第3学年及び第4学年	自他の生命を大切にし、生命や自然のすばらしさに感動する。
	第5学年及び第6学年	自他の生命を大切にし、自然を愛護する。

勤労・奉仕	第1学年及び第2学年	手伝いや仕事を進んで行う。
	第3学年及び第4学年	働くことの大切さを知り、進んで働くようにする。
	第5学年及び第6学年	働くことの意義を理解し、人や社会の役に立つことを考え、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	第1学年及び第2学年	自分の好き嫌いや利害にとらわれないで行動する。
	第3学年及び第4学年	相手の立場に立って公正・公平に行動する。
	第5学年及び第6学年	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、正義を大切にし、公正・公平に行動する。
公共心・公德心	第1学年及び第2学年	約束やきまりを守って生活し、みんなが使うものを大切にする。
	第3学年及び第4学年	約束や社会のきまりを守って公德を大切にし、人に迷惑をかけないように心掛け、のびのびと生活する。
	第5学年及び第6学年	規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、学校や人々の役に立つことを進んで行う。

< 中学校 >

項 目	学 年	趣 旨
基本的な生活習慣	第1学年、第2学年及び第3学年	自他の安全に努め、礼儀正しく節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
健康・体力の向上	第1学年、第2学年及び第3学年	活力ある生活を送るための心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている。
自主・自律	第1学年、第2学年及び第3学年	自分で考え、的確に判断し、自制心をもって自律的に行動するとともに、より高い目標の実現に向けて計画を立て根気強く努力する。
責任感	第1学年、第2学年及び第3学年	自分の役割を自覚して誠実にやり抜き、その結果に責任を負う。
創意工夫	第1学年、第2学年及び第3学年	探究的な態度をもち、進んで新しい考えや方法を見付け、自らの個性を生かした生活を工夫する。
思いやり・協力	第1学年、第2学年及び第3学年	だれに対しても思いやりと感謝の心をもち、自他を尊重し広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
生命尊重・自然愛護	第1学年、第2学年及び第3学年	自他の生命を尊重し、進んで自然を愛護する。
勤労・奉仕	第1学年、第2学年及び第3学年	勤労の尊さや意義を理解して望ましい職業観をもち、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	第1学年、第2学年及び第3学年	正と不正を見極め、誘惑に負けることなく公正な態度がとれ、差別や偏見をもつことなく公平に行動する。
公共心・公德心	第1学年、第2学年及び第3学年	規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の伝統と文化を大切にし、国際的視野に立って公共のために役に立つことを進んで行う。

【留意点】

○ 児童生徒の行動の状況について、項目ごとに、その趣旨に照らして判断し、絶対評価をする。

それぞれの項目について、その趣旨に照らして十分に満足できる状況にあると判断される場合は○印を記入する。

- 学校や地域の実態等に応じて特に必要があれば、空欄に項目を追加して記入する。
- 各学校においては、児童生徒の発達の段階を踏まえて、各項目の趣旨に基づきより細かな観点を立て、指導に生かせる的確な評価が行えるように工夫する。
- 児童生徒の行動の状況について、客観性をもたせるために学校生活の多くの場面で、長期間にわたって豊富な資料を収集する。
 - ・ 「行動の記録」は、道徳教育と関係が深いので、道徳の授業における道徳性の実態把握を積み重ね、評価に生かす。
 - ・ 各教科や特別活動などの評価を生かす。
 - ・ 児童生徒一人一人の具体的な行動を観察ノート等に記録し生かす。
- 評定尺度法、チェック・リスト法、児童生徒の自己評価や相互評価等を参考資料として活用する。
- 豊富な資料をもとに、各項目ごとの行動の特性を評価し、児童生徒一人一人がもっている個性やよさを見いだすようにする。
- 各学校においては「行動の記録」の評価にかかわる具体的な観察の方法や観点について、共通理解を図る。
- 児童生徒のよさを積極的に見いだすように努めるとともに、児童生徒が自らよりよく生きようとする願いをもっていることを信じ、よりよい成長を願う姿勢で評価する。
- 他の学級の児童生徒の良い点を積極的に情報交換出来るように教師間の協力体制を整え、行動の評価を指導に生かす。

<行動の評価における観点の具体例（小学校）>

① 基本的な生活習慣

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
登下校時	1・2年	・ 登下校する道を安全に気を付けて歩いている。	
	3・4年	・ 交通規則を正しく理解し、事故に遭わないよう気を付けている。	
	5・6年	・ 交通規則を身に付け、下級生の世話をしながら登下校している	
休み時間	1・2年	・ 仲よく元気に友達と遊んでいる。	
	3・4年	・ けがをしないよう安全に気を付けて遊んでいる。	
	5・6年	・ 危険な場所を避け、自他の安全に気を付けて遊んでいる。	
学習時	1・2年	・ 元気よく返事や答え方ができ、よい姿勢で学習している。	
	3・4年	・ 学習のルールに従って、考えや意見を述べている。	
	5・6年	・ 相手の立場に立って、場に応じた発表をしている。	

② 健康・体力の向上

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
休み時間	1・2年	・ 汗の始末を場に応じてしている。	
	3・4年	・ 汗をかいたら、衣服を調節するなどして、体温を適切に保っている。	
	5・6年	・ 自分の体調に合わせた運動と休憩、水分補給をしている。	

③ 自主・自律

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
学級活動	1・2年	・ 自分の考えをはっきり言える。	
	3・4年	・ 他人の意見に惑わされず、正しいと思うことを発表している。	
	5・6年	・ 学級内で起きた問題に対して、進んで解決のための話し合いや活動をしている。	

④ 責任感

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
係・当番活動	1・2年	・ 自分から進んで係や当番の仕事をしている。	
	3・4年	・ 自分の係や当番の仕事に責任をもって最後までやり遂げている。	
	5・6年	・ 係や当番の仕事をよりよく行うために、計画を立てたり、活動後の反省を生かしたりしている。	

⑤ 創意工夫

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
学習時	1・2年	・ ノートの取り方や文字の書き方を工夫している。	
	3・4年	・ わかりやすい発表の仕方や読みやすいノートの取り方を工夫している。	
	5・6年	・ 各教科の学習に応じたノートの取り方や学習のまとめ方を工夫している。	

⑥ 思いやり・協力

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
学校生活全般	1・2年	・ 他人が忘れ物をしたときに貸してあげたり、けがをしたときなどに親切にしたりしている。	
	3・4年	・ だれとでも平等に接することができ、友達が困っているときは、優しい態度で対応している。	
	5・6年	・ 人の失敗や過ちに広い心で接することができ、進んで相談相手になっている。	

⑦ 生命尊重・自然愛護

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
学校生活全般	1・2年	・ 学級で育てている植物や飼っている生き物に、優しい気持ちで接している。	
	3・4年	・ 学級で育てている植物や飼っている生き物を大切にし、進んで世話ができる。	
	5・6年	・ 自然や命の尊さに気付き、学校内の植物の手入れや動物の飼育に愛情をもって取り組んでいる。	

⑧ 勤労・奉仕

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
清掃時	1・2年	・ 自分の仕事を進んで行っている。	
	3・4年	・ 自分の仕事の内容を理解し、進んで最後まで行っている。	
	5・6年	・ 自分の仕事だけでなく他の人の仕事も協力して行っている。	

⑨ 公正・公平

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
学校生活全般	1・2年	・ 友達から強く主張されても、言いなりになることはせず、自分でよく考えて行動している。	
	3・4年	・ 誰にでも同じように親切に接し、もめごとが起きたときは、友達の意見に左右されることなく、公平に判断している。	
	5・6年	・ 自分の利害関係や相手によって、自分の言動を変えたり、偏見をもったりせず、誰に対しても分け隔てなく接している。	

⑩ 公共心・公德心

観察場面	学年	十分満足できる状況	○印
学習時	1・2年	・ 学級の備品や机、いす等を大切に使用している。	
	3・4年	・ 学級や学校の備品や用具を後で使う人のことを考えて大切に使用している。	
	5・6年	・ 学校や学級の備品や用具は公共物であることを正しく理解し大切に使用している。	

<行動の評価における観点の具体例（中学校）>

① 基本的な生活習慣

観察項目	十分満足できる状況	○印
規則的な生活	・ 遅刻や欠席、早退がなく、毎日元気に登校している。	
学習態度	・ 授業中私語がなく、教師の話をしっかり聞いている。	
礼儀・あいさつ	・ 時と場合や相手の立場を考えた言葉遣いや立ち居振る舞いができ、相手に不快感を与える言動をしない。	

② 健康・体力の向上

観察項目	十分満足できる状況	○印
健康な食生活	・ 健康と栄養に関する意識や関心が高い。	
病気やけがへの対応	・ 日頃から自分の体調の変化に気を付け、健康管理に心掛けています。	
体力づくり	・ 運動会やマラソン大会などの体育的行事に積極的に参加している。	

③ 自主・自律

観 察 項 目	十分満足できる状況	○印
学習の取組	・ 学習に対する目標をもって授業に意欲的に参加し、粘り強く取り組んでいる。	
学級での取組	・ 他人のよさを認め、友人と良好な人間関係を築いている。	
清掃への取組	・ 自分から仕事を見付けて作業ができ、状況に応じて仕事を進めている。	

④ 責任感

観 察 項 目	十分満足できる状況	○印
学習の取組	・ グループ学習では、責任をもって自分の役割を果たそうとしている。	
学級での取組	・ 学級で決めたことは、多少の困難があっても進んで守ろうとしている。	
後 始 末	・ 人が見ていようがいまいが、他の人のいやがることでも最後まで確実にやる。	

⑤ 創意工夫

観 察 項 目	十分満足できる状況	○印
学習の取組	・ 自分の興味・関心に基づいて多様な視点から課題を見付け、意欲的に学習している。	
学級での取組	・ 学級における様々な取組において機知に富んだアイデアを提案している。	
学校行事への取組	・ 様々な行事に、進んで新しい考え方や方法を取り入れている。	

⑥ 思いやり・協力

観 察 項 目	十分満足できる状況	○印
学習の取組	・ 授業中に困っている人を必要に応じて助けている。	
学級での取組	・ 係の仕事でよりよいものを作ろうと、励まし合いながら協力的に活動している。	
学校行事への取組	・ 様々な行事において自分の役割や分担に基づいて、他と強調しながら取り組んでいる。	

⑦ 生命尊重・自然愛護

観 察 項 目	十分満足できる状況	○印
生命尊重の精神	・ 相手の人権を尊重して発言したり、行動したりしている。	
動植物・自然愛護	・ 自分の身の回りの環境を進んできれいにしようとして、奉仕活動などに積極的に取り組んでいる。	

⑧ 勤労・奉仕

観 察 項 目	十分満足できる状況	○印
学級での取組	・ 他の人の嫌がる仕事でも進んで行い、最後までやり遂げている。	
地域等における取組	・ 地域の行事に参加し、係などを引き受け積極的に活動している。	

⑨ 公正・公平

観 察 項 目	十 分 満 足 で き る 状 況	○印
学習の取組	・ 自分の意見に固執せず、常に全体の立場を考えて話したり、行動したりしている。	
学校生活全般における取組	・ 正義感が強く不正に対して毅然とした態度で対応し、誰とでも分け隔てなく接している。	

⑩ 公共心・公德心

観 察 項 目	十 分 満 足 で き る 状 況	○印
学校生活全般における取組	・ きまりを正しく理解し、施設や備品などの公共物を丁寧に取り扱い扱っている。	
伝統・文化、国際理解	・ 日本のみならず外国の文化や伝統にも関心が高く、いろいろな活動に参加している。	

8 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄

この欄には児童生徒の成長の状況を総合的に捉えるため、以下のような事項等を文章で箇条書き等により端的に記述する。

- (1) 各教科や外国語活動（小学校のみ）の学習に関する所見
- (2) 総合的な学習の時間の学習に関する所見
- (3) 特別活動に関する事実及び所見
- (4) 行動に関する所見
- (5) 進路指導に関する事項（中学校のみ）
- (6) 児童生徒の特徴・特技、部活動（中学校のみ）、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動等指導上参考となる諸事項
- (7) 児童生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見
- (8) その他の所見

(1) 各教科や外国語活動（小学校のみ）の学習に関する所見

記入に際しては、児童生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるように留意する。ただし、児童生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば端的に記入する。

記 入 例

○ 学習内容を中心とした特徴

- ・ 絵画の技術が優れており、熱心に描き上げることができる。
- ・ 問題意識をもって資料を調べ、発表することができる。
- ・ 理科の授業では動植物の観察を積極的に行うことができる。

○ 学習に対する努力・学習意欲・学習態度

- ・ ノートのまとめや宿題を丁寧に行った。
- ・ 努力した結果、学習に自信と実力をつけてきた。

○ 学習の進歩が著しい教科

- ・ 練習に取り組み、リコーダーの演奏が大変上手になった。
- ・ 努力して教科書の英文を上手に読むことができるようになった。

○ 体力の状況、健康の状況に関すること

- ・ 腎臓病のため、体育では無理のない範囲で運動を行わせた。
- ・ 喘息で治療通院のため、学習の遅れを取り戻そうとよく努力した。

○ 学習困難な児童生徒にとった処置

- ・ 家庭との連携とともに、教育相談員などの助言を得て、心理的に安定した状態で学習に取り組めるよう支援している。
- ・ 骨折し30日間入院したが、病院で学習し遅れを取り戻した。

(2) 総合的な学習の時間の学習に関する所見

記入例

小 3 ・ 4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境美化問題に取り組み、調査方法を工夫して積極的に探究していた。 ・ 探究した結果をグラフや絵で表現するなど、工夫することができる。 ・ 調べ学習では、ノートの整理や作品づくりが大変丁寧である。
小 5 ・ 6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の情報を整理し、課題解決のため活用することができる。 ・ 河川の汚染調査活動がきっかけとなり、理科の学習の必要性を理解し、進んで学習に取り組むようになった。 ・ 表現する力に優れており、意見発表会では中心になって活躍していた。 ・ 老人介護施設訪問では、交流活動に積極的に参加した。
中 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ操作に優れ、調べ学習では友達から頼りにされていた。 ・ 課題解決に向け、自分で納得するまで探究する姿が見られた。 ・ 「地域の伝統行事」に関するテーマを設定し、様々な方法を用いて意欲的に調べ学習に取り組んでいた。 ・ 思考力や表現力に優れており、話し合いでは常に正しく内容を伝えた。

【留意点】

- その児童生徒個人として比較的優れている点など、総合的な学習の時間の学習全体を通して見られる特徴に関することを記入する。
- 学習に対する努力、学習意欲、学習態度等の児童生徒の学習状況に関することを記入する。
- 「総合的な学習の時間の記録」の「評価」の欄は、学習活動及び各学校の目標、内容、育てたい資質・能力に基づいて記入するのに対し、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」では、総合的な学習の時間の学習について総合的に見た場合の児童生徒の特徴及び指導上留意すべき事項を記入するようにする。

(3) 特別活動に関する事実及び所見

- 児童生徒の成長の状況を総合的に捉えるため、文章や箇条書き等により端的に記入する。
- 児童生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、児童生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものであれば端的に記入する。
- 活動の結果だけでなく、活動の過程における児童生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童生徒のよさを多面的・総合的に評価したりする。
- 事実については、次のような事項が考えられる。
 - ・ 所属する係
 - ・ 児童会活動・生徒会活動
 - ・ 学校行事での役割
 - ・ 各活動での出席や参加の状況等

記入例

<小学校>

- ・ くばり係を担当し、連絡帳の配付を毎日行った。
- ・ 自分の考えを積極的に発表するとともに、友達の発表をよく聞いていた。
- ・ 多くの人の意見のよさを認めることができるようになった。
- ・ 話合いのルールを守り、クラス全体が向上するように努力してきた。
- ・ 話合いに工夫を加え、学級集会活動を有意義なものにした。
- ・ 学級生活向上のためにリーダーとして活躍した。
- ・ 学級代表として、諸問題の解決を目指して活動した。
- ・ 招集係となり、スポーツ集会ではその任務を果たした。
- ・ クラブ活動では、熱心に切り絵の制作に取り組み、技術も向上している。
- ・ 自分に適したクラブが選択でき、水泳の技術も向上している。
- ・ 器楽クラブでは下級生の指導をよく行い、自らも努力し立派な演奏ができた。
- ・ 遠足のとき、進んでゴミ集めを行い、楽しい遠足にするための努力をした。
- ・ 運動会では「ダンス」のリーダーとして、来賓への歓迎のことばを述べた。
- ・ 運動会のとき、会場係になり、友人と協力し積極的に活動した。
- ・ 学芸会では、その人物になりきって熱演した。
- ・ 校内美化の活動を真剣に行い、他の児童の模範となっている。
- ・ 終業式では、学年の代表となり、1年間の反省を発表することができた。

<中学校>

- ・ 音楽係として、進んで練習し、校内音楽祭で学年優勝する原動力となった。
- ・ 学級での決定事項を進んで守り、級友からの信望が厚い。
- ・ 学級活動で、常に全体的なことを考え建設的な意見を述べることができた。
- ・ 司会者として、会の運営をスムーズに進めることができた。
- ・ 保健委員会に所属し、かぜの予防のため、うがいの励行など積極的に進めた。
- ・ 生徒会書記として生徒会活動の記録の整理や累積に努めた。
- ・ 職場体験活動を通して、規範意識が高まった。
- ・ リーダーの資質があり、生徒会執行部として運営に携わった。

【留意点】

- 他の児童生徒との比較でなく、その児童生徒個人として比較的優れている点を評価する。
- 全体を通して見られる活動で、その児童生徒の特徴として認められるものを記入する。
- 当該学年において、学年当初と学年末とを比較したとき、活動の状況に著しい進歩が見られた場合にその具体的な活動状況を記入する。

(4) 行動に関する所見

- ① 全体的に捉えた児童生徒の特徴に関すること。
- ② 個人として比較的優れている点や長所など、各教科、道徳科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間、特別活動、その他学校生活全般にわたって見られる児童生徒の特徴に関すること。
- ③ 学年初めと学年末とを比較し、行動の状況の進歩が著しい場合、その状況に関すること。
- ④ 指導上特に留意する必要があると認められる児童生徒の健康状況、その他特に指導が必要である場合には、その事実に関すること。

⑤ 「行動の記録」は児童生徒の行動を分析的に評価するのに対して、この所見では、これら分析的評価をもとにして、総合的に捉えて記入する。記入する事項の例として示した上記の①～④については以下のことを踏まえておく。

- ・ ①は、全人的な個性に関することである。
- ・ ②は、項目の評価をもとにして優れている点などの特徴である。
- ・ ③の進歩の状況は、縦断的個人内評価にあたる。
- ・ ④は二つあり、一つは健康の状況で指導上特に留意する必要がある事項についてである。もう一つは、行動の状況を総合的に見て特に指導が必要と考えられる場合の指導処置に関することであり、これは慎重に扱うべきである。

記入例

<小学校>

小 1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級で育てている植物の世話を率先して行った。 ・ 図画工作のとき、活動に戸惑っている友達を励ましていた。 ・ 友達の前でよく冗談を言うなど和やかな雰囲気をつくっている。
小 2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えで制作活動を進めることができる。
小 3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボール運動が好きである。 ・ 給食当番のとき、自分から率先して重いものを持った。 ・ 身の回りを清潔に保つことを心掛けている。
小 4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の信念を貫き、周りへの配慮も欠かさない心優しいところがある。 ・ 弱視なので、座席を前に移し黒板の文字が見えるように配慮した。
小 5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るく誰とでも気軽に話し、級友から好かれている。 ・ 係や当番の仕事など、自分から進んで行うことができる。 ・ 遊びやゲームをするときにルールを守ることができる。
小 6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明朗快活で級友に対して協力的なので、誰からも好かれている。 ・ 体育委員会に所属し、用具の後片付けや、集団行動の統率を責任をもって行うことができる。

<中学校>

中 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級文庫の整理や学級花壇の整備を、労を惜しまずに行った。 ・ 明朗快活で誰にでも親切なので、級友から好かれている。 ・ 物の取扱いが丁寧で、身の回りの整理整頓がきちんとしている。 ・ 自分の考えをはっきりと主張し、級友の意見にも耳を傾けることができる。 ・ 行動に裏表がなく責任感も強いので、級友から信頼されている。
-------------	--

【留意点】

- 児童生徒一人一人のよさや特性を伸ばす指導のための基礎資料となるよう配慮する。
- 望ましくない特徴や指導を要する場合の記述内容には十分配慮する。
- 健康状況の記入は健康診断票を転記するのではなく、指導上特に留意する必要があることについて記入する。その際、記入して残す必要があるかどうか十分に検討する。
- この欄に関係の深い標準検査、例えば、行動、性格、道徳性等の標準化された検査を実施した場合は、その結果を指導に役立つよう記入する。
- 観察記録は、個人のプライバシーに関する事項を含んでいることから、その取扱いには十分配慮する。

(5) 進路指導に関する事項（中学校のみ）

記入例

1 年	<p>[本人の希望]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 将来の職業や当面する進路については、ともに未定である。・ A高校への進学を希望している。 <p>[保護者の意見]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 両親ともに、本人の希望を尊重している。 <p>[担任の指導]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 進路相談で、自分の将来について考える大切さを指導した。・ 興味・関心をもてるもの、打ち込めるものを見いだすよう助言した。
2 年	<p>[本人の希望]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 将来、農業を後継するかどうか迷っている。・ B工業高校〇〇科への進学を希望している。・ 科学者への道を進みたいと考え始めている。 <p>[保護者の意見]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 父親は家業を継がせたいと考えている。 <p>[担任の指導]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 将来への見通しを立てるよう助言した。・ 後継問題、高校進学問題も含めて、親子で話し合うよう助言した。
3 年	<p>[本人の希望]</p> <ul style="list-style-type: none">・ C農業高校〇〇科への進学を希望している。・ △△への関心を持ち、D高校〇〇科への進学を強く希望している。・ 科学関係の研究者になるため、大学進学を目指し、E高校への進学を希望している。 <p>[保護者の意見]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 両親は本人の希望が実現できるよう支えていきたいと考えている。 <p>[担任の指導]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 現在の意欲をもち続け、将来に生かしてほしいことなどを話した。

【留意点】

- 学級担任による生徒理解だけでは不十分であり、全教職員による生徒一人一人の理解と、その情報を学級担任へ集約することが必要である。
また、そのための校内組織、体制の確立が必要である。
- 生徒が希望する将来の職業や当面する進路先、就職先などについて、端的に記入する。
- 学級活動や進路相談、啓発的な体験活動などの進路に関する学習や活動に意欲的に取り組み、自己の特性を考え進路に関する情報を整理して進路計画を立て、その実現に努力しているかなどの状況について、事実を端的に記入する。
- 進路の問題を自己の意志と責任で解決し、選択しようとしているかなどについて、その事実を端的に記入する。
- 進路に関する学習や活動を通じて、学級担任等が生徒に行った指導・助言について端的に記入する。
- 保護者の意見について記入する。
- 進路適性等について標準化された検査の結果等で、指導上参考とした事柄についても記入することが考えられる。

(6) 児童生徒の特徴・特技、部活動（中学校のみ）、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動等指導上参考となる諸事項

記入例

- **児童生徒の特徴・特技、部活動（中学校のみ）**
 - ・ 読書家で、読後の感想等をノートにメモしている。
 - ・ 百人一首を暗記している。
 - ・ 英検4級
 - ・ ピアノを習っており、学習発表会では合唱のピアノ伴奏を担当した。
 - ・ サッカー部所属。ゴールキーパーとして活躍。優れた技能を有している。
 - ・ コンピュータの操作に優れている。
 - ・ 他の生徒にやさしく声をかけている姿がうかがえた。
- **学校内外における社会奉仕体験活動**
 - ・ 老人ホームを定期的に慰問し、高齢者に積極的に話しかけた。
 - ・ JRC団員として、通学路の花の世話などを行っている。
 - ・ 特別支援学校の運動会にボランティアとして参加した。
 - ・ 地域の清掃活動には、小学生の時から進んで参加している。
 - ・ 自主的な美化活動として、教室に花を飾った。
- **表彰を受けた行為や活動**
 - ・ 善行少年として表彰を受けた。（一人暮らしの老人の話し相手をしたため。）
 - ・ ○○主催の作文コンクール優秀賞
 - ・ 野口英世賞○○賞

【留意点】

- この欄の趣旨は、児童生徒のよさや可能性などを幅広く把握し、児童生徒の自己実現を目指す学習や生活を支援していくことに役立てることにある。
- 児童生徒の個人として優れている点や長所などを積極的に見いだす。

(7) 児童生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入例

- ・ 落ち着いて話を聞くなど、友達と一緒に学習ができるようになった。
- ・ 周りの動きに流されず、自分なりの生活ができるようになった。
- ・ 相手を思いやる気持ちが育ちはじめ、リーダーシップを発揮できるようになってきた。
- ・ 転入当初、多少の戸惑いもあったが、学級の中心的な役割を担うほど元気に活動できるようになった。
- ・ 通級による指導
サ行音やラ行音が正しく発音できない構音障害のため、○○小○○教室で、週2時間、遊びや日常生活の体験と結び付けた言語機能の基礎的事項に関する指導を受けている。（令○○. ○○. ○○～令○○. ○○. ○○）

【留意点】

- 記入に際しては、児童生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるよう留意する。ただし、児童生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。
- 通級による指導を受けている児童生徒については、通級による指導を受ける学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等を記入する。
通級による指導の対象となっていない児童生徒で、教育上特別な支援を必要とする場合については、必要に応じ、効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記入する。
なお、個別の指導計画を作成しており、通級による指導に関して記載すべき事項が当該指導計画に記載されている場合には、その写しを指導要録の様式に添付することをもって指導要録への記入に替えることを可能とする。

(8) その他の所見

記 入 例

- ・ アメリカに3年間在住。令和元年7月30日帰国。日本語は問題ない。
- ・ 中国帰国者の子どもで日本語がまだ十分ではないが、何事にも意欲的、積極的に取り組む。
- ・ 両親が交通事故で死亡（平〇〇．〇〇．〇〇）したため、叔父が未成年後見人となる。（平〇〇．〇〇．〇〇）
- ・ 父親が海外駐在員として母親とともに渡英したため、祖母が実際の養育に当たっている。

【留意点】

- 以上の事項に属さないもので、児童生徒の指導上において特に配慮を要するものがある場合には記入する。

9 「出欠の記録」の欄

「授業日数」の欄

- 児童生徒の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。
- 学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。
- 学校教育法施行規則第63条の規定に基づき、非常変災等による臨時休業の場合は、授業日数には含めない。
- 転学又は退学等をした児童生徒については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入する。
- 転入学又は編入学等をした児童生徒については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

「出席停止・忌引等の日数」の欄

以下の日数を合算して記入する。

- 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条による出席停止日数並びに感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数
- 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数
- 忌引日数
- 非常変災等児童生徒又は保護者の責任に帰すことができない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数
- 選抜のための学力検査等の受験その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

「出席しなければならない日数」の欄

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

「欠席日数」の欄

「出席しなければならない日数」のうち病気又はその他の事故で児童生徒が欠席した日数を記入する。

「出席日数」の欄

「出席しなければならない日数」から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

なお、学校の教育活動の一環として児童生徒が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。

また、令和元年10月25日付け元文科初第698号「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」に沿って、不登校児童生徒が学校外の施設において相談・指導を受けるとき、一定の要件を満たすとともに、当該施設における相談・指導が不登校児童生徒の社会的な自立を目指すものであり、かつ、不登校児童生徒が現在において登校を希望しているか否かにかかわらず、不登校児童生徒が自ら登校を希望した際に、円滑な学校復帰が可能となるよう個別指導等の適切な支援を実施していると評価できる場合、校長は指導要録上出席扱いとすることができる。

さらに、義務教育段階における不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行うとき、当該児童生徒が在籍する学校の長は、一定の要件を満たすとともに、その学習活動が、当該児童生徒が現在において登校を希望しているか否かにかかわらず、自ら登校を希望した際に、円滑な学校復帰が可能となるような学習活動であり、かつ、当該児童生徒の自立を助けるうえで有効・適切であると判断する場合には、指導要録上出席扱いとすること及びその成果を評価に反映することができる。

これらの場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数及び児童生徒が通所若しくは入所した学校外の施設名又は自宅においてICT等を活用した学習活動によることを記入する。（詳しくは83ページ参照）

「備考」の欄

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況、転入学した児童生徒が前に在籍していた学校における出欠の概要等を記入すること。

【留意点】

- 出欠の記録の欄の日数については、該当すべき日数がない場合には、空白とせずに「0」と記入する。

<授業日数>

- 原則として、同一学年のすべての児童生徒につき同日数とする。
- 長期休業中における児童生徒の出校日数は、教育課程に位置付けられたものでない限り授業日数とはみなされない。
- 転学又は転入学のための旅行日数は授業日数に含めない。
- 各学級が同日数ではないが、同時に学級閉鎖をした日がある場合は、共通に重なった日数を控除して、残余をそれぞれの学級の授業日数とする。

日、曜 組	3日 (月)	4日 (火)	5日 (水)	6日 (木)	7日 (金)	
1組						4日から5日まで学級閉鎖
2組						4日から6日まで学級閉鎖
3組						5日から7日まで学級閉鎖
<p>共通に学級閉鎖している5日(水)の1日分だけ「授業日数」に含めない。控除された残余の学級閉鎖日数は、それぞれの学級において「出席停止・忌引等の日数」欄に計上する。この場合、1組は1日、2組は2日、3組は2日となる。</p>						

<出席停止・忌引等の日数の欄>

- 児童生徒又は保護者の責任に帰すことができない事由例として、非常災害による交通遮断、交通機関の事故等による通学不能、児童生徒の家が風水害、火災及び震災等の被害のために通学困難な場合等があげられる。
- 「その他教育上特に必要な場合」とは、就職試験等があげられる。

記 入 例

<小学校>

区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなけ ばならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1	205	5	200	3	197	学級閉鎖5(インフルエンザ予防) 病欠3(喘息)
2	205	5	200	0	200	出席停止2(風疹) 忌引3(祖父死亡)
3	205	0	205	25	180	病欠25(腹痛1 虫垂炎入院24)
4	205	0	205	2	203	事故欠2(家事都合)
5	205	0	205	0	205	遅刻3(耳鼻科通院)
6	205	0	205	0	205	

<中学校>

区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなけ ばならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1	132	0	132	3	129	福島市立南中学校より転入学(8月26日) 同校在学中は出席日数73日 病欠3(腹痛)
2	205	0	205	2	203	事故欠2(家事都合) 早退5(歯科通院)
3	199	0	199	25	174	出席扱い30(やすらぎ教室) 事故欠25(不登校)

10 非常時にやむを得ず学校に登校できない児童生徒に対する学習指導

(1) 指導要録上の取扱い

非常時に臨時休業又は出席停止等によりやむを得ず学校に登校できない児童生徒について、以下の方法によるオンラインを活用した学習の指導（オンラインを活用した特例の授業）を実施したと校長が認める場合には、指導要録の「指導に関する記録」の別記として、非常時にオンラインを活用して実施した特例の授業等の記録について学年ごとに作成すること。

- ① 同時双方向型のオンラインを活用した学習指導
- ② 課題の配信・提出、教師による質疑応答及び児童生徒同士の意見交換をオンラインを活用して実施する学習指導（オンデマンド動画を併用して行う学習指導等を含む）

(2) 非常時にオンラインを活用して実施した特例の授業等の記録

以下の事項を記入する。

- ① 児童生徒が登校できない事由
感染症や災害の発生等の児童生徒がやむを得ず学校に登校できなかった事由を記入する。
- ② オンラインを活用した特例の授業
 - ・ 実施日数
オンラインを活用した特例の授業の実施日数を記入する。
 - ・ 参加日数
オンラインを活用した特例の授業への参加日数を記入する。学校の臨時休業中のオンラインを活用した特例の授業を実施している日に、家庭の事情等により学校に登校して参加する児童生徒についても、オンラインを活用した特例の授業への参加日数として記入する。
 - ・ 実施方法等
オンラインを活用した特例の授業の実施方法等を簡潔に記入する。
- ③ その他の学習等
必要に応じて、オンラインを活用した特例の授業以外に、非常時に臨時休業又は出席停止等によりやむを得ず学校に登校できなかった児童生徒が行った学習その他の特記事項等について記入する。